

	自己評価 (○)			指導者評価
6. 心理学に関する実験	C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
6-1. 実験の計画を立てることができる。				
6-2. 実験データの収集及び処理を適切に行うことができる。				
6-3. 実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。				
7. 知覚及び認知	自己評価 (○)			指導者評価
7-1. 人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。	C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
7-2. 人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。				
8. 学習及び言語	自己評価 (○)			指導者評価
8-1. 人が経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。	C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
8-2. 言語の習得における機序について概説できる。				
9. 感情及び人格	自己評価 (○)			指導者評価
9-1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。	C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
9-2. 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。				
9-3. 人格の概念及び形成過程について説明できる。				
9-4. 人格の類型、特性等について概説できる。				
10. 脳・神経の働き	自己評価 (○)			指導者評価
10-1. 脳神経系の構造及び機能について概説できる。	C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
10-2. 記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説できる。				
10-3. 高次脳機能の障害及び必要な支援について説明できる。				

自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA

15. 心理に関する支援 (相談、助言、指導その他の援助)
15-1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説でき、実践できる。
- 15-2. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。
15-3. 心理療法やカウンセリングには実施者の能力等によって限界があることを説明できる。
- 15-4. 心理に関する支援が必要な者のプライバシーに配慮できる。
16. 健康・医療に関する心理学
16-1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。
16-2. 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。
16-3. ささまざまな保健活動において必要な心理に関する支援について説明できる。
16-4. 災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる。
17. 福祉に関する心理学
17-1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。
17-2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。
18. 教育に関する心理学
18-1. 教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。
18-2. 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。
19. 司法※に関する心理学
19-1. 家事事件、犯罪・非行及び犯罪被害についての基本的事項を概説できる。
19-2. 司法分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。

20. 産業・組織に関する心理学
20-1. 職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について概説できる。

20-2. 組織における人の行動について概説できる。

21. 人体の構造と機能及び疾病

21-1. 心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害について概説できる。

21-2. 心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。

22. 精神疾患とその治療

22-1. 代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できる。

22-2. 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。

22-3. どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できる。

23. 各分野の関係法規

23-1. 保健医療分野に関する法律、制度について概説できる。

23-2. 福祉分野に関する法律、制度について概説できる。

23-3. 教育分野に関する法律、制度について概説できる。

23-4. 司法分野に関する法律、制度について概説できる。

23-5. 産業・労働分野に関する法律、制度について概説できる。

24. その他

24-1. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。

24-2. 事例を通して心理に関する支援を要する者及びその関係者についての情報を収集し、課題を抽出・整理できる。

※司法…この試案において、「司法」には矯正、保護等の行政領域を含む。

自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA
自己評価 (○)			指導者評価
C. 不十分 (50%未満)	B. ほぼ十分 (50-70%)	A. 十分 (70-80%)	A+. 優秀 (80%以上)
			C/B/A/A+/NA

特に研修すべき課題とその研修法についての確認

- (ア) - (1) 心理に関する支援を要する者及びその関係者に関する心理検査の技能修得
C：見学・説明を受けた B：共同で、あるいは一部を施行した A：単独で施行した
A+：複数例施行したに経験した検査をリストすること
- (ア) - (2) 心理に関する支援を要する者及びその関係者に関する心理面接の技能修得
ウィークリースケジュール記録に基づき心理面接のケース数と面接数を報告すること
うち事例3例のA41枚でレポートを提出すること
- (ア) - (3) 心理に関する支援を要する者及びその関係者に関する地域支援の技能修得
週別課題にて実務経験の理解・修得を評価するレポート提出
- (イ) 心理に関する支援を要する者及びその関係者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
週別課題にて実務経験の理解・修得を評価するレポート提出
- (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
週別課題にて実務経験の理解・修得を評価するレポート提出
- (エ) 多職種連携及び地域連携
週別課題にて実務経験の理解・修得を評価するレポート提出
- (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
週別課題にて実務経験の理解・修得を評価するレポート提出

一般病院における公認心理師実務研修プログラム（例）

目標：

- ① 公認心理師カリキュラム到達目標を達成すること。
- ② 一般病院における心理支援業務について『日常業務に習熟し、上級業務の現場での指導が必要であるが、時に自発的に遂行することも可能である』レベルに達すること。

内容：＜スケジュールの例を参照のこと＞

- ① 研修医との協働プログラムとして多職種連携によって遂行される実践的なインターンシップ（レクチャー、セミナー、週毎の課題作成などの教育・研修の機会を含む）
- ② 個別面接（心理面接、グループ支援）、心理教育[個別・集団]の機会（指導者からの割り当て）
- ③ 福祉分野（高齢者福祉施設での週 5 日 40 時間）、産業分野（企業内保健センターでの週 5 日 40 時間）の実習
- ④ 教育・司法分野での知識獲得は指導責任者と相談の上教育体制を構築

指導体制： ※経験年数はイメージ

- A 臨床心理士（常勤・経験 15 年）【指導責任者】
- B 精神科医・臨床心理士（経験 30 年）
- C 精神科医（経験 20 年）
- D 臨床心理士（経験 8 年）【高齢者福祉施設】
- E 臨床心理士（経験 15 年）【企業内保健センター】
- F 臨床心理士（経験 13 年）（非常勤）
- G 臨床心理士（経験 10 年）（非常勤）

評価および修了認定：＜到達目標達成チェックリストを参照のこと＞

プログラム開始時、6 ヶ月、12 ヶ月、18 ヶ月、24 ヶ月、終了時に到達目標達成評価を行い、終了時に①指導責任者評価全項目 A 以上、②週毎の課題の全提出、③心理検査経験リスト提出、④個別面接 3 例レポート提出、⑤多職種による態度に関する多面的評価全項目 A で修了認定とする。

1週間のスケジュール (例)

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
820 朝ミーティング リエゾン (注1) 1130 予診 (B先生)	820 朝ミーティング リエゾン 1100 個別面談	820 朝ミーティング リエゾン 1130 予診 (C先生)	820 朝ミーティング リエゾン 1100 個別面談	820 朝ミーティング リエゾン 1130 予診 (B先生)	830 朝ミーティング リエゾン
1400 メモリーク リック (注2) 1630 リエゾンミ ティング	1400 メモリーク リック 1630 リエゾンミ ティング	1400 メモリーク リック 1630 リエゾンミ ティング	1400 緩和ケア (注 3) ミーティング (A 先生) 1630 リエゾンミ ティング	1400 メモリーク リック 1630 リエゾンミ ティング後個別指導 (A先生) 1900 院外セミ ナ一参加	(2400 までに課題 提出)
リエゾン・予診・個別面談・検査記録は指導者A先生のスーパービジョンとカウンターサインを受けること					
今週の課題：動機づけ面接法の考え方に基ついたパチンコ依存症の人に渡すワークシートをA4 2枚で作成し、土曜夜24時、指導者B先生 bb@aaa.jp までPDF形式でメール添付にて提出のこと					
今月の課題：レジデントW先生に対して今月中に任意のテーマ(テーマと時間は話し合っ決めて決めること)に関するミニレクチャー(30分)を1回行うこと その際に用いた資料を提出すること					

注1 リエゾン：コンサルテーション・リエゾン。身体疾患を有する(主として入院中の)患者に対する心理支援活動

注2 メモリークリック：もの忘れ外来

注3 緩和ケア：慢性疾患(主としてがん)患者の身体・精神的苦痛の緩和を目的としたケア

外部施設：福祉領域の週

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
845 高齢者福祉施設 V 訪問 オリエンテーション (D 先生) 担当居住者紹介	900 朝ミーティング 個別面談	900 朝ミーティング 個別面談	900 朝ミーティング 個別面談	900 朝ミーティング 個別面談	休日
ケア見学	1400 ケアプラシ ミーティング 個別面談	1400 音楽療法	1400 園芸療法	1400 回想法 1630 回想法ミ ーティング後 個別指導 (D 先生) 1800 終了・直 帰可	休日
<p>個別面談・検査記録は指導者D先生のスーパービジョンとカウンターサインを受けること 可能であれば新規居住者および家族面談に陪席すること 外部施設での経験について指導者A先生のスーパービジョンを受けること</p> <p>今週の課題：認知症患者の介護家族のストレスチェックリストをA4 2枚で作成し、土曜夜24時、指導者B先生 bb@aaa.jp までPDF 形式 でメール添付にて提出のこと</p>					

外部施設：産業領域の週

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
820 朝ミーティング 企業 U 健康センター へ移動 930 オリエンテーシ ョン (E 先生) 業務見学	930 朝ミーティング 業務見学	930 朝ミーティング 業務見学	930 朝ミーティング 業務見学	930 朝ミーティング 業務見学	休日
個別面談・検査記録は指導者 E 先生のスパービジョンとカウンターサインを受けること 可能であれば従業者面談に陪席すること 外部施設での経験について指導者 A 先生のスパービジョンを受けること 今週の課題：復職にあたり会社の上司に渡す接し方のポイントを A 4 2 枚で作成し、土曜夜 24 時、指導者 B 先生 bb@aaa.jp まで PDF 形式 でメール添付にて提出のこと	業務見学	業務見学	業務見学	業務見学 1600 E 先生まとめ 1700 終了・直帰可	休日

プログラム認定基準チェックリスト（案）

- 目標に公認心理師カリキュラム到達目標の達成が明示されているか
- 指導者に常勤の実習指導者資格を有する心理に関する業務を行っている者が含まれているか
- 個別面接の経験の記録管理の仕組みが明示されているか
- 個別面接が3例以上経験できる見込みがあるか
- 自施設で多職種連携を行う仕組みが明示されているか
- 他分野の見学・実習体験が2分野以上60時間以上経験できる仕組みが明示されているか（必須ではない）
- 指導者の指導体制が明示されているか
- 指導者による指導スケジュールが明示されているか
- 到達目標の記録管理の仕組みが明示されているか
- 不足する講義が特定され受講を可能とする仕組みがあるか
- プログラム終了時の到達目標の達成を確認する仕組みが明示されているか